

# 2030年頃の三重の姿

～現状やトレンドから  
描いたポジティブな三重のイメージ～

1. 働き方
2. 経済・産業
3. 農林業
4. 交通
5. 観光・交流
6. 自然環境
7. スポーツ
8. 動物愛護
9. 文化

# 1. 働き方

## 現状・トレンド

(県内)

### ■ 働き方改革と女性活躍の推進

- ・ W I T 2016の開催
- ・ みえの育児男子プロジェクト
- ・ 働き方改革・生産性向上推進懇談会  
(ワーク・ライフ・バランス推進タスクフォース)

### ■ 男性育児休業取得率が増加

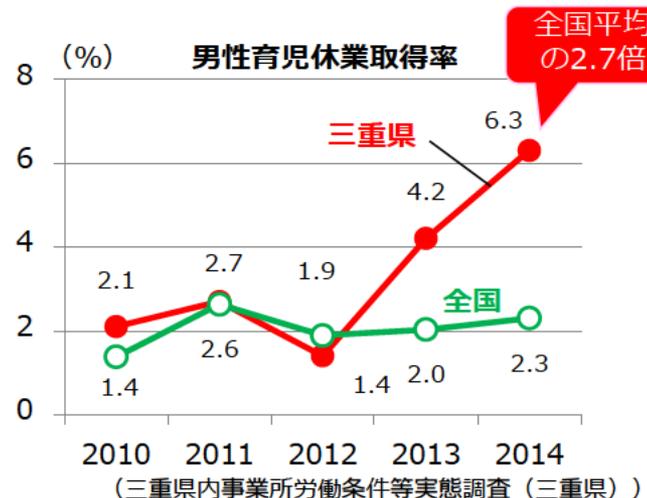
(国内)

### ■ 一億総活躍に向け国をあげた女性の活躍や働き方改革の取組の加速

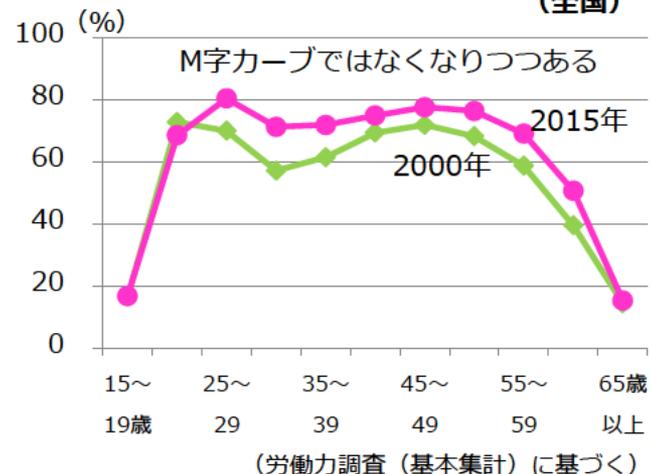
- ・ 長時間労働の是正
- ・ 待機児童の解消に向けた取組
- ・ 女性の社会進出促進に向けた税制の見直し議論

(世界)

### ■ I o T、A I、ロボットなど技術の劇的な進歩



女性の年齢5歳階級別労働力人口比率の推移 (全国)



## 2030年の三重

- 男性の半数は育児休業を取得、イクメンという言葉は死語に。
- 県内のすべての企業において、時間外労働“ゼロ”& 有給休暇完全取得。
- ロボットによる見守りが進み、保育士の負担が軽減するとともに待遇が改善。ニーズに応じた保育が実現。
- 女性活躍が一層進展。働きたい女性は全員働ける環境が実現し、県内企業の多くで女性のトップが指揮。県庁幹部も半数が女性に。
- 家事や介護の一部をロボットが担い、家庭内での家事や介護労働の負担は大幅に軽減。ロボットも伊勢弁や伊賀弁を学習し、家族の一員に。

## 2. 経済・産業

### 現状・トレンド

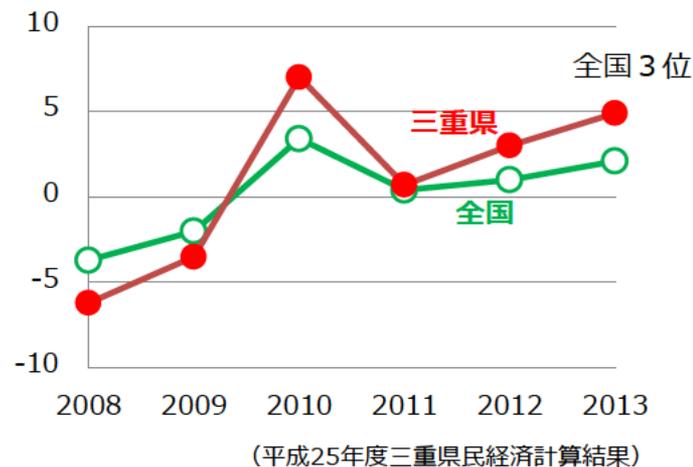
(県内)

- ポストサミットの取組
- 2013年度（直近）の経済成長率は4.9%、全国3位
- 三重県の2011～2025年実質産出額の成長率見通し1.6%、全国1位
- 人材育成  
2018年、四日市工業高校に専攻科(機械・電気)が設置される。

(県内・国内)

- 航空宇宙産業の発展  
国産初のジェット旅客機MRJの量産拠点が松阪市に整備される。
- 交通ネットワークの充実
  - ・新名神高速道路の三重県区間は2018年度に開通
  - ・東海環状自動車道、国道1号北勢バイパス、国道23号中勢バイパス等の開通が進む（時期未定）

実質経済成長率の推移



実質産出額の成長率見通し(2011～2025年)

順位	都道府県名	(%)
1	三重県	1.6
2	愛知県	1.5
3	石川県	1.5
4	群馬県	1.4
5	島根県	1.1

(日本経済研究センター  
第40回中期経済予測概要(2013-25年))

# 2030年の三重

- 製造業が集積する三重県は、高速道路などの交通ネットワーク整備が進展し、産業の競争力が一層高まり、全国トップ3の経済成長を維持。県内総生産もトップ10入り！
- 自動車をはじめ航空宇宙や産業機械、健康・医療、食など、さまざまなものづくりの分野で高い技術力を持つ県内のオンリーワン企業が現在の10倍に増え、県内経済を牽引。それら企業の魅力を紹介する産業観光ツアーも大盛況。
- 県内の多くの中小企業でプログラミングやデータ分析に関するICT人材が活躍。あらゆる産業分野でのAI、ロボット、ドローンの活用や顧客ニーズにあったカスタマイズ化が当たり前。
- 三重県産（三重県で機体の一部を製造）の飛行機が世界の空で活躍中。
- 県内大学の航空宇宙学コース卒業生が、航空宇宙産業に就職し、世界の航空宇宙ビジネスを引っ張るリーダーに。

# 3. 農林業

## 現状・トレンド

(県内)

- 企業等の農業参入が増加
- 大規模経営や6次産業化に取り組む若い農家が活躍、6次産業化に取り組む農家が増加
- 東アジアへの県産材輸出の増加

(国内)

- AIやIoT、ビッグデータ、ロボットの活用によるスマート農業の取組の加速
  - ・ 農機の自動走行技術（自動運転トラクター）
  - ・ 収穫作業などの自動化
  - ・ ドローンによる生育状況の監視
  - ・ ビッグデータを活用したリスク予測や栽培管理 等

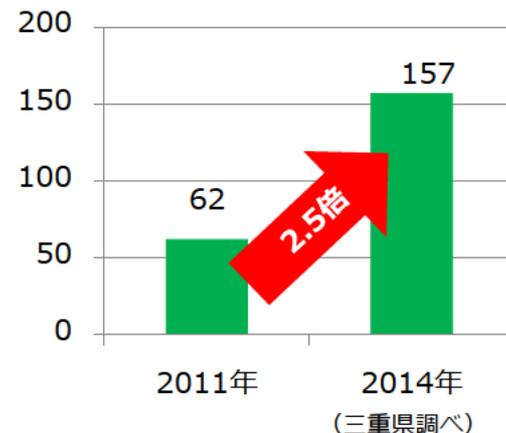
(世界)

- 新興国の経済成長が進展、高級食品の購買層が大きく拡大  
2025年のASEAN、中国、南アジアの富裕層は6.3億人と予想  
(通商白書2015)

企業等の農業参入数



6次産業化に取り組む農家・組織数



## 2030年の三重

- 欧米やアジアの富裕層に県産食材ファンが急増、海外での需要が大幅に増加。
- 農業の大規模化、自動化がさらに進み、農業の生産性が飛躍的に向上。一人あたり農業所得は1,000万円を超え、若者の就職ランキングでは農業関連法人が上位にランクイン。
- 就農する若者が増加。県内農業従事者の平均年齢は全国平均マイナス10歳。
- 海外では、松阪牛や伊賀牛のすき焼き＋伊勢茶がパーティメニューの定番に。町なかでは牛ホルモン屋が大繁盛。
- 輸出が順調に増加し、伐採樹齢に達した県産材は有効活用。公益性と収益性の両方に優れた持続可能な林業経営が実現。

# 4. 交通

## 現状・トレンド

(世界)

### ■ 自動走行の開発

大手の自動車メーカーとIT企業が手を組み技術開発に取り組んでおり、国家レベルでの研究開発も進められている。  
世界標準の確立をめざして国内での取組が進展。

(県内)

### ■ 三重県における自動走行の実証

国の自動走行実証事業の地域募集に関し、南伊勢町が「小型電動カートチーム」の部門に、鈴鹿市が「小型バスチーム」の部門に、それぞれ県と共同で応募。

### ■ 玉城町のオンデマンドバス

2009年から東京大学大学院が開発したシステムを使ってオンデマンド方式による無料の「元気バス」を運行。

(国内)

### ■ 貨客混載～バスで人も貨物も～

路線バスの空いた空間に荷物を載せて乗客と一緒に運ぶ取組が広がっており、輸送業者の負担軽減と路線バスの維持に貢献。

自動走行システムの実現期待時期

		[ 実用化 ] [ 計画 ]	
完全自動走行システム	レベル4	加速・操舵・制動全てを「ドライバー」以外が行い「ドライバー」が全く関与しない状態	2025年目途
準自動走行システム	レベル3	加速・操舵・制動全てをシステムが行う状態。但し、システムが要請した時は「ドライバー」が対応する。	2020年目途
	レベル2	加速・操舵・制動のうち複数の操作を同時にシステムが行う状態	2020年まで
安全運転支援システム	レベル1		
運転支援なし			

静的情報      動的情報 (高度化)      管制

いずれのレベルにおいても、ドライバーはいつでもシステムの制御に介入することができるが前提。  
準自動走行システム(レベル3)及び完全自動走行システム(レベル4)については、民間企業による市場化が可能となるよう、政府が目指すべき努力目標の時期として設定。

内閣府 政策統括官(科学技術・イノベーション担当)  
戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)自動走行システム研究開発計(2016.10.20)より

自動運転レベルは道路環境に応じて変化

## 2030年の三重

- 北勢地域で産学官による自動運転システムの技術開発が進められ、三重県発の自動運転システムが世界の市場を席卷。
- 過疎地域等では、ライドシェアや自動運転車が一般化。南部地域では、75歳以上の全ての方が免許を返納。自動運転車で買い物やレジャー、病院に出かけ、豊かな自然の中で便利な暮らしを実現。
- 65歳から75歳の方は自動運転車でゆったり通勤。パワードスーツ着用で力仕事もOK。
- 自動運転システムのオペレーションやメンテナンスなどの新たな雇用が創出。システムの運用に係る経費は、全てクラウドファンディング。
- 県内各地を走る鉄道やバスが人と地域産品を一緒に運び、採算性を確保。過疎地域のバス路線が復活。

# 5. 観光・交流

## 現状・トレンド

(県内)

- 伊勢志摩サミットによる知名度向上  
三重県への外国人旅行者数の増加
- MICE誘致の取組

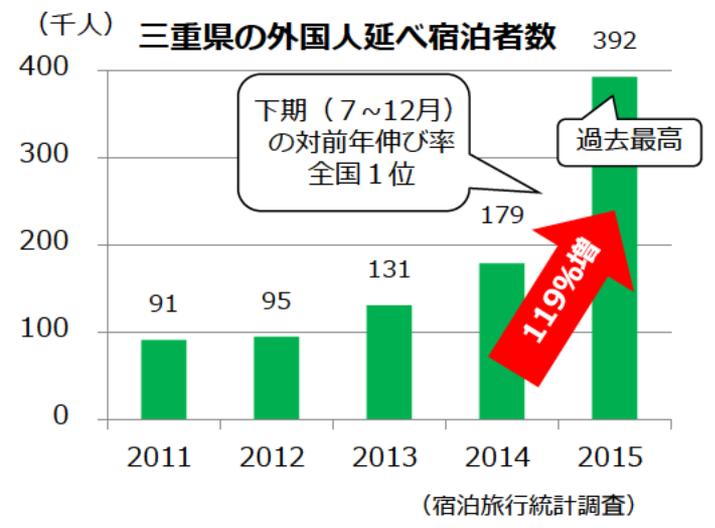
(国内)

- 「世界が訪れたくなる日本」を目指し  
「明日の日本を支える観光ビジョン」の  
施策にオールジャパンでの取組

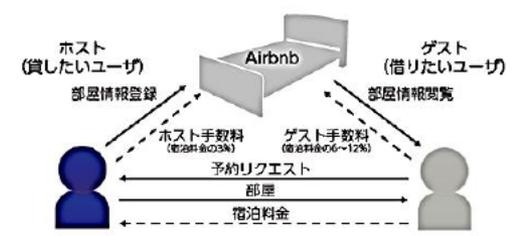
訪日外国人旅行者数目標  
2015年 1974万人 → 2020年 4,000万人 →  
(2015年の約2倍)  
→2030年 6,000万人  
(2015年の約3倍)

(世界)

- シェアリング・エコノミーの進展
- AIの進歩による同時通訳、翻訳技術の  
向上



シェアリング・エコノミーの仕組み (民泊サービスの例)



民泊サービスに登録されている部屋のイメージ



(平成28年版情報通信白書のポイント)

## 2030年の三重

- インバウンドが飛躍的に増加し、伊勢神宮の観光客の半数が海外から。県内各地で地域の文化や暮らしに触れる“みえたび”が高い評価。
- 海外富裕層が中部国際空港からチャーターした水上飛行機で英虞湾へ着水、伊勢志摩に長期滞在。
- 国際会議が海女小屋や熊野古道センターなどのユニークベニューで開催され、海女小屋では、80代の現役海女さんがエクスカーションの参加者と英語で意見交換。
- 三重の文化、伝統、自然環境、食、地域の暮らしなどが外国人を魅了し、永住する外国人が増加。
- 県内の観光ガイドの半分が外国人。海外からの旅行者に母国語で三重県の魅力を発信。

# 6. 自然環境

## 現状・トレンド

(県内)

- 三重まるごと自然体験構想の推進
- 伊勢志摩国立公園が環境省の「国立公園満喫プロジェクト」先導的モデルに選定  
伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2020を策定
- 伊勢志摩国立公園70周年  
「インバウンドの拡大」と「若者の育成」を2本柱に、公園内の豊かな自然や歴史・文化などを生かした様々な取組を展開。
- 「エコツーリズム推進全体構想」の認定を取得した鳥羽市と名張市が活動を展開
- 自然体験を提供している組織が活躍中  
大杉谷自然学校、志摩自然学校 等

伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2020 の取組



多様な主体によるサービスの提供



まちなみ等の景観改善



効果的なプロモーション

## 2030年の三重

- 伊勢志摩国立公園が世界水準のナショナルパークとしてブランド化。豊かな自然を体験できる様々な施設やプログラムに海外旅行者から最高ランクの評価。
- エコツーリズムをメインに県内に人を呼び込むビジネスモデルが確立。自然体験を提供するエコツアーガイドが子どもがなりたい職業の上位にランクイン。
- 国内外からの自然体験プログラム参加者が、地域の住民と共に自然環境の保全活動に取り組んでおり、シオマネキなど20種あった県指定希少野生動植物の生息数が全て回復。
- 清流日本一の宮川、原生の自然豊かな大台ヶ原、ロッククライマーの憧れの地・鈴鹿山系、熊野灘に面した雄大な東紀州の海などをフィールドに、さまざまなアクティビティが満喫できる三重県は自然体験の聖地に。

## 現状・トレンド



三重とこわか国体  
マスコットキャラクター  
「とこまる」

(県内)

### ■ スポーツ大会の開催

- 2018年 全国高等学校総合体育大会
- 2021年 三重とこわか国体・全国障害者スポーツ大会三重大会（三重とこわか大会）

### ■ 女子レスリング選手の活躍

### ■ ヴィアティン三重がJFLに昇格

### ■ 三重交通G スポーツの杜 伊勢の陸上競技場や津市の「サオリーナ」の完成

### ■ キャンプ地誘致の取組

(国内)

### ■ スポーツ大会の開催

- 2020年 東京オリンピック・パラリンピック
- 2026年 夏季アジア大会（愛知県・名古屋市）

### ■ 生涯スポーツ大会の開催

- 2021年 関西ワールドマスターズゲームズ



リオオリンピック 吉田沙保里選手 銀メダル  
土性沙羅選手 金メダル



リオパラリンピック 齋田悟司選手 銅メダル（車いす  
テニスダブルス） 前川楓選手 走幅跳4位



ヴィアティン三重 JFL昇格決定！

## 2030年の三重

- 津市の「サオリーナ」で、レスリングのワールドカップ「さおり杯」を開催。県内選手がメダルを独占！
- 三重県出身のアスリートがオリンピック・パラリンピックや世界選手権でメダルを量産中。
- 三重交通G スポーツの杜 鈴鹿（県営鈴鹿スポーツガーデン）でサッカーの110回天皇杯を開催。ヴィアティン三重と鈴鹿アンリミテッドFCの決勝戦に三重県中が熱狂。
- 東京オリンピックの事前キャンプを実施したカナダの体操チームとの交流が10年間継続中。
- 生涯スポーツも盛んになり、健康寿命が延伸。

# 8. 動物愛護

## 現状・トレンド

(県内)

- 2017年「三重県動物愛護推進センター」(愛称:あすまいる)が開所
- 人口当たりの犬の登録頭数が全国2位
- 犬・猫の殺処分数の減少



人口100人当たり犬の登録頭数  
(匹/100人)

1位	香川	7.20
2位	三重	7.11
3位	岐阜	6.42
4位	高知	6.29
5位	群馬	6.19

(都道府県別の犬の登録頭数と予防注射頭数等(平成27年度)及び平成27年国勢調査から算出)

(国内)

- ファシリティドッグが小児病棟で導入  
欧米では専門的なトレーニングを積んだ犬(ファシリティドッグ)を小児病院や高齢者のリハビリ施設等に導入。日本でも小児病院から導入が始まっている。  
(出展:月刊事業構想2017年2月)

(世界)

- ブラジルのドッグフードメーカーBR4Dogsは、飼い犬がどの程度幸せか目で見えるデバイスを開発

(匹)

犬・猫の殺処分数



## 2030年の三重

- 「三重県動物愛護推進センター」（愛称：あすまいる）の整備をきっかけに、ペットを適正に飼育する人が増加。
- ペットが病気の子どもたちの癒しや高齢者のリハビリの応援に活躍。ペットとの共生が日本一進んでいる県に。
- ペットの幸福度を競うコンクールが三重で開催され、三重県は犬・猫等主要部門で優勝し、ペットの幸福感日本一の県に。



# 9. 文化

## 現状・トレンド

(県内)

- 「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録
- 伊勢志摩サミットで各国首脳が神宮を訪れ、世界平和の確立に向けたメッセージを発信
- 県内の文化人の記念の年が目白押し
  - 2018年度 松浦武四郎生誕200年
  - 2019年度 谷川士清生誕310年
  - 2020年度 本居宣長生誕290年
  - 2021年度 大黒屋光太夫生誕270年

(国内)

- 東京オリンピック文化プログラムの展開



桑名石取祭の祭車行事



鳥出神社の鯨船行事



上野天神祭のダンジリ行事

## 2030年の三重

- 「日本人の心のふるさと」伊勢神宮をはじめ、日本人の精神性を感じる  
ことのできる様々な文化・伝統を持つ三重県は「目に見えない『和』の  
文化」の聖地に。
- 各地の伝統行事が若者や観光客により、確実に伝承され、祭りや行事を  
継承する担い手となるため、移住希望者が急増。
- 学校や公民館で開催される句会や「古事記を読む会」などに国内外から  
多くの三重ファンが参加。
- 宣長生誕300年で、全国で宣長ブームに。